

幾何学の面白さを味わう

黒木哲徳

数学のことを Mathematics といいます。その語源はギリシャ語のマテマタにあります。このマテマタとは諸学問という意味です。三平方の定理で知られるピタゴラスは紀元前 5 世紀に南イタリアのクロトンに学校を開設し、音楽、天文学、幾何学、数論を教えました。これが当時の諸学問でした。2 世紀後の紀元前 3 世紀にはユークリッドという人が「原論」(通称、ユークリッド原論)という幾何学の教科書を作りました。これは図形だけではなく数論も扱っており、当時の諸学問の原典となり、今日の論理的な学問体系の基になりました。現在教えられている学校数学(微積分や確率統計などを除いて)はこの本の内容なのです。その意味で「原論」は世紀を越えたベストセラーといわれています。実は、近世までは数学と言うと幾何学を意味していたのです。あなたもギリシャ時代の賢人に仲間入りして、幾何学をちょっぴり味わってみませんか。

児童の内発的動機付けと教科指導

赤松國吉

現在の小学校社会科の教科指導では、近年は極めて多彩で多様な取り組みがなされています。インターネットを用いた調べ学習や、学ぼうとする仕事に携わる方をゲストティーチャーとして招いて取材し、結果をまとめて発表し合う学習など、子どもたちはいろいろな手法で学習に取り組み、その成果を新聞としてまとめたり、発表資料として掲示発表したり、劇化して発表したり、その活動は、多様であり、体験的な手法も加わってエネルギーに展開されている場面を数多く見かけます。

これらは、調査したり発表したりする活動として高く評価されてよい学習方法です。しかし、社会科学習指導における幾つかの課題解決の必要性が叫ばれる中、重視しなければならない教科の指導方法として考えなければならないのは、何なのでしょう。

それは、教師のしっかりとした意図のもと、子どもが内発的な学習意欲を喚起し、探究の道筋を明確にしながらか適切な指導や援助に支えられて探究的な学習活動を展開していく学習指導。子どもが、基礎的・基本的な知識のみならず人々の営みの中にある人間の真理にせまるような概念を発見し、これからの自らの生活や生き方について考えていくような学習指導。そんな教科指導の有り様を求めていきたいものですね。皆さんと共に社会科という教科の学習指導の在り方について考えてみましょう。

子どもの心と身体を育む環境づくり～デンマークの森の幼稚園に学ぶ

磯部美良

世界一幸福な国といわれるデンマーク。その秘密を探るため、2010年9月、デンマークを訪れました。そこでは、おもに、森の幼稚園、学童施設、小学校0年生クラス等の幼児教育施設を視察しましたが、自然を活かした教育のあり方や、“危険”との関わり方、時間の使い方など、驚かされることがたくさんありました。この講義では、デンマークの森の幼稚園の紹介を中心として、子どもの可能性を引き出す教育とはどういうものか、そこでの大人の役割とは何かについて、心理学の観点から、みなさんと考えてみたいと思います。

障害理解の旅

内田芳夫

ICF(2001年・WHO 総会の国際障害分類改訂版)による障害概念が医療モデルから医療・社会統合モデルへ移行されたことにより、人と環境との相互作用が重視されるようになった。

糸賀一雄先生は、1960年に「この子らに世の光を」あててやろうという哀れみの施策ではなく、この子らが自ら輝く存在そのものであるから、いよいよ磨きをかけて輝かそうという「この子らを世の光に」という思想を発表した。近江学園の教育から生まれた「発達保障」の教育は1961年から発展・深化されるようになった。1979年に養護学校義務化が実現し、2007年から「特殊教育」から「特別支援教育」がスタートした。特別支援教育は発達障害のある児童・生徒の一人ひとりに対する教育的ニーズを踏まえた指導である。

今、通常教育と特別支援教育の一体的な、インクルーシブな地域づくりや学校づくりが課題となっている。半世紀の歴史を振り返りながら未来に向けた障害理解の旅を考察する。

自然の中で育む「生きる力」

遠藤晃

私は、学校教育の中で、自然を活かした環境教育に取り組んでいます。

沖縄県座間味村の小学校では、総合的な学習の時間に、地域に生息するケラマジカの研究を指導してきました。指導といたしますが、ここでの私の役割は「ケラマジカを調べよう」と提案するだけ。シカの食べ物、角、戦い、子どもたちから知りたいことがあふれ出

ます。

テーマも調べ方もまとめ方も、決めるのは子どもたちで、そこに模範解答はありません。知りたいことを調べてわかったこと。それが"正解"です。子どもたちの疑問を上手に引き出し、育てるのが先生の役割です。そんな学びを経験すると、子どもたちはまるでカゴから出された鳥のように羽ばたきます。いきいきと興味を自由に解放し、研究者も気づかないシカの行動を発見。ついには沖縄の学会で発表まで。

子どもたちは無限の力を持っています。それに自分で気づき、自信を持てば、生きる力もたくましくなります。ひとつの正解だけを教える教育。これを考え直すタイミングはまさに今。教える側から変わらなくちゃ、と子どもたちに教えられました。

自分も他者も大切に作る人間関係づくり

春日由美

「自分も他者も大切に作る人間関係づくり」

この講座では、臨床心理学の視点から、実際にカウンセリングでも行う簡単な心理テストを行いながら自分の考え方の特徴を振り返ったり、クレヨンで絵を描いたりしながら自分のことを大切にすることについて体験的に学んだり、ストレスをためすぎないようにすることや上手な人間関係の作り方などについてワークを行いながら学んだりします。予定される時間や、特に希望される内容をお聞きした上で、内容については決定します。

教育とは！人間とは！

神田嘉延

教育学とは人間の発達を学ぶ学問である。人間の発達を考えていくうえで、人間性とかなにかをみつめていく必要がある。本講座では、人間的に生きるということはどういうことを共に考えていきたい。

人間と動物は、どこが根本的に違うのか。猿に近い原始類人猿がどのようにして人間になったのか。動物としてのヒトと人間とはどこが違うのか。人間はお互いに助け合うことによって、人間になった。弱肉強食は、動物の世界であり、個体がそれぞれ生存競争していくのが動物である。人間は相互扶助が本質であり、相互扶助のために家族をもち、地域のなかで暮らし、社会をもったのである。現代社会は、人類史的な発達からみるとどうなのか。人間的なのか。もし人間的でい面があったら、なぜそのようになったのか。孤立化はなぜ起きるのか。

人はなぜ愛する力をもつのか。古来からキリスト教では愛を説き、儒教では仁愛を強調

し、仏教では慈愛の精神を大切にしてきた。多くの思想家は愛の人的価値を語ってきた。人間は愛することなしに生きていけない。他人を理解し、尊重することによって、その愛する人たちとともに暮らすことによって、人間は幸福になるのではないか。人間の成長は人を尊重し、心を高めることによって幸福になれる。教育学は、人間の発達を探求し、幸福になるための人間の成長をどのようにしていくかを考える学問である。

歴史から見る子どもの教育

國枝裕子

日本では、義務教育として小学校で6年間・中学校で3年間を過ごします。さらに9割以上の人が高校まで進学し、計12年間を過ごす場である「学校」は、私たちにとってたいへん身近な存在と言えるでしょう。しかしながら、学校についてよくよく考えてみると、不思議なこと、知らないことがたくさんあります。たとえば、皆さんもこんな疑問を抱いたことはありませんか。「なぜ勉強しなくちゃいけないの?」「なぜテストがあるの?」「どうして制服があるの?」「どうして時間割があるの?」「どうして学校って4月から始まるの?」「どうして緑色なのに黒板と呼ぶの?」等々。

また、こうした素朴な疑問のほかにも、「学校の先生ってどうしたらなれるの?」「先生になるための勉強ってどんなもの?」といった、学校の「先生」に関する疑問を持ったことがある人もいるのではないのでしょうか。このような疑問に対し、教育学とくに教育史の視点を取り入れながら、「学校」や「教育」について考えることで、教育学研究の一端をご紹介します。

遊びで育つ

黒川久美

みなさんは幼い頃、どんな遊びをしましたか?

ここでちょっとクイズです。 A時代「1 おてだま 2 おはじき 3 まりつき 4 人形遊び 5 なわとび」(女児) 「1 めんこ 2 こまあそび 3 兵隊ごっこ 4 野球 5 竹馬」(男児) B時代「1 テレビ 2 マンガ・本 3 自転車乗り 4 トランプ・ゲーム 5 バドミントン」(女児) 「1 野球・キャッチボール 2 テレビ 3 自転車乗り 4 マンガ・本 5 プラモデル工作」(男児)。さて A 時代、B 時代とはそれぞれいつの頃でしょうか?そしてみなさんの子どもの時期は、どんな遊びがベスト5にはいつてくるでしょうか?

子どもの遊びは時代・社会の変化とともに移り変わっていきます。そして随分前から「最近の子どもは遊べなくなった」「伝承遊びの衰退」「遊びにおける三つの“間”の貧困化」といったことが指摘されてきました。

遊びは、本来子どもたちの、とりわけ乳幼児期の子ども的人格発達にとって極めて重要な活動です。子どもが生き生き遊んでいるということは、その時を人間らしく生きているということを示しているといえます。

乳幼児の発達にとっての遊びの意義や、遊びを育てるためにどうしたらよいか等について一緒に考えてみましょう。

子どもの絵と大人の絵

古賀隆一

絵を描くこと（又描けること）は、楽しいことです。でも“描けないとか、絵は上手くない”という人は、何故が多いですね。これまでの情操教育の方法に、問題があるのかも知れません。そもそも人の心や感性は、尺度で計れるものではありません。自由に表現すれば良いはずです。人間は誕生以来、特別な教育を受けないでも立派に芸術の心を持っています。誰もが経験することですが、1歳半～2歳位から運動に始まる“楽描き”（落書きではない）です。コミュニケーション・ツールとしての役割です。ところがどうでしょう、描いて良い処に“描”いたら芸術ですが、いけない処に“書”いたら単なるいたずらの落書きになります。何故でしょう。

講座では、この何故ということを決済に導く内容です。又、子どもの絵と大人の絵は本質に違いがあります。そこで絵画表現の違いを考えてみます。それぞれに学びの方法があります。先ず、子どもが描画力を発揮出来る環境作りと子どもの絵の見方について。次に、大人の絵画勉強の方法として、簡単な「基本形の描き方の実習」をします。より人間らしく、より豊かな心、豊かな生活を身につける講座にしたいと思います。

自立へ向かう“自分探し”

澁澤 透

“自分探し”。この言葉が、若者の行動や心理の特徴、あるいは教育の課題を示すキーワードとして使われるようになってから、すでに十数年が経ちます。一方で「空虚な自己」というマイナスイメージ、他方で「自己実現」というプラスイメージを想起させるこの言葉は、依然として、現代社会における若者の生きづらさや精神的な自立の難しさを表していると思われます。

本講座では、まず近代になって登場してきた「自立」の理念の意味するものとその歴史的な意義を押さえ、今日における“自分探し”が「自立」に向かうものとしてなされる必要性について指摘します。つぎに現代における「自立」の困難を生んでいる社会的背景を

明らかにし、そのうえで現代的な「自立」像を構想し、「自立」のための課題について考えてみたいと思います。とかく個人的で心理的な問題としてだけ捉えられがちな「自立」という問題を歴史的・社会的な文脈のなかに据えて考えてみることによって、人間や社会、そして自分のいまとこれからを探っていくためのきっかけにしていいただければと考えています。

いろいろな民族の音楽に親しもう！

西村純子

世界の様々な音楽を、クラシック音楽も含めて紹介します。メロディ・リズム・ハーモニー・モードといった音楽の構造や、音楽を生み出した社会や文化といった音楽外の状況にも着目します。例えば、私たちが当たり前だと思っている平均律による7音音階とは異なる音階が世界には無数にあること、そして、私たちの耳には音程が外れたように聞こえる微分音など、「常識」を括弧に入れて多様な音楽文化に触れましょう。未知の音楽を通して、様々な国や民族に、新たな関心が芽生えるかもしれません。そして、重要なことは、音楽文化に、「進んでいる」「遅れている」、また「優れている」「劣っている」は無いということです。あらゆる国や民族に固有の文化があり、等しく敬意を感じるきっかけになれば幸いです。また、グローバルな時代に、自国の音楽について知り、語る必要が、今後増えていくでしょう。そのためにも、自分の国、日本の音楽文化についても言及したいと思います。

少しだけ子どもに、少しだけ先生になってみませんか！

宮内 孝

子どもにかかわる先生の仕事の楽しさは、なんといっても子どもの笑顔にふれること。その笑顔を引き出すのも、実は先生。子どもの笑顔を引き出すことができる“先生に必要なチカラ”を私といっしょに考えてみませんか？

講座では、まず子どもの立場になって、子ども理解を図ります。子どもは、どんな存在なのかを写真や動画を用いて考えます。次には、先生の立場で、子どもに教えることを体験的に学びます。例えば、「新出漢字はどのようにして教えるのか」「ボールが捕れない子どもにはどのようにして教えるのか」「繰り上がりのたし算はどのようにして教えるのか」ということについて考え、実際に行いながら教えることの難しさや楽しさにふれます。

そして、子どもを理解し、教えるために必要なことが、大学のカリキュラムにどのように位置づけられているかを理解します。

このような学びを通して、“先生に必要なチカラ”とは何かを考えながら、子どもにかかわる仕事の意義について考えます。

絵本・紙芝居を子どもたちへ！

矢口裕康

絵本・紙芝居を聴き手に届ける際には、どのような創意工夫が必要かを、受講していただいた皆さんと、一つ一つ具体化していきたいと思います。

紙芝居は「紙の芝居(ドラマ)」です

絵本は「絵と言葉」の本です

そしてこれらの素材の一つ、民話は「先人が語り伝えてきた財産」です
紙芝居・絵本そして素材としての民話を、作品として取り上げ、子ども達に語る際にはこんなことがあるのではを、一緒に見出していきましょう。

ふくし入門セミナー

若宮邦彦

あなたは「福祉」という言葉からどんな色をイメージしますか？

あなたは「福祉」という言葉からどんな人をイメージしますか？

あなたにとって「福祉」ってどのようなものですか？

近年、公的介護保険制度が導入され高齢者領域を中心に「福祉」が普遍化し、身近なものになってきました。また、バリアフリー、ユニバーサルデザインといった言葉も、よく耳にするようになりました。

誰でも経験したことがあると思います。CMでも流れていますが、困っている人を見かけた時、私たちの心にはどのような感情がわいてくるのでしょうか？

また、今年のはじめに全国にいろんな伊達直人やタイガーマスクが出没して、人の情けや、やさしさに心温まる思いがしました。

われわれ人間はいかなる状況であっても平等であり、尊ばれ、幸せであるべきです。そして、社会福祉は高齢者、しょうがい者、子ども、一人親、さらにはホームレスといった人びと、そして私たちの人権を擁護し、生活問題を解決・緩和することで、人びとの生活を支援するものです。

この講座では社会福祉を制度の側面、私たちの暮らしの側面といった身近な視点から学び、あらためて皆さんと一緒に「福祉って何だろう？」と考える機会にしたいと思います。